

三好不動産宅地開発参入

郊外の戸建て需要増対応

不動産管理の三好不動産(福岡市)は、戸建て用の大規模宅地開発事業に参入すると発表した。不動産開発のFOMA(同)と共同で、9月に福岡県篠栗町での造成に着手している。

来年11月に計104区画で構成する宅地が完成する予定で、住宅メーカー4社が戸建てを建築する。

新型コロナウイルス禍を機に在宅勤務が増えるなど生活様式が変化し、マンションよりも郊外の戸建ての人气が高まるとみる。三好不動産は数区画の小規模

な宅地造成を手掛けた実績はあるが、行政の許可が必要な大規模宅地の開発は初めて。従来の不動産管理や仲介業に加え、宅地開発を収益の柱に育てたい考えだ。

今回の宅地はJR篠栗駅から徒歩8分に立地。開発面積は約2万7千平方メートルで、住宅メーカーはミサワホーム九州(42区画)▽トヨタホーム九州(26区画)▽パナソニックホームズ(26区画)▽ミヨシアセツトマネジメント(10区画)の区画分譲が決まっている。

る。

不動産コンサルティングの東京カンテイ(東京)が今年1月に発表した調査結果によると、福岡市は全国の特別区と政令市の中で、持ち家に占めるマンション

比率が2番目に高かった。大規模修繕などマンションが抱える課題もあり、三好不動産は今後、福岡都市圏で戸建て住宅の需要が高まると予測する。

(布谷真基)